

# 矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.8



発行日：平成30年2月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第9回山の地域部会を開催しました！

1月22日(月)に第9回山の地域部会が岡崎市にて開催されました。今回の地域部会では、平成29年度の山部会の活動進捗報告、流域連携テーマ・イベントの活動成果を確認するとともに、今後の山部会の活動計画・次年度の矢作川流域圏懇談会の体制について意見交換を行いました。また、九州北部豪雨の被害状況と岡崎市の森林・林業をめぐる動きについて話題提供をいただき、この地域の課題等を話し合いました。なお、今回の議論を加えたものを全体会議の山部会の報告とします。



日時：平成30年1月22日(月) 14:00~17:00  
場所：岡崎市ぬかた会館 2階2~3会議室  
参加者：26名(事務局含む)

## ◆主な会議内容

### 1. 平成29年度の山部会の活動進捗報告

今年度は、山部会の活動テーマである①流域圏担い手づくり事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドラインの4つのテーマについて、主に以下の項目の情報共有と意見交換を行いました。

#### ①流域圏担い手づくり事例集

- これまでの事例集の作成で培った人間関係の深化をめざして、「事例集交流会2017」を開催した。
- 流域圏全体へ視野を広げる必要性から「流域圏担い手づくり事例集」に改名した。
- 川部会のテーマの一つである「地先モデル」と連携して、川の担い手にも取材範囲を広げた。

#### ②山村ミーティング

- 「矢作川流域林業担い手100人ヒヤリング」を開始した。今年度は岡崎、豊田森林組合管内の林業作業班を対象に取材を進めた。
- 「矢作川感謝祭」は、これまで豊田市民を対象とする川のイベントであったが、流域の農業や林業の関係者も参加する、流域を意識したイベントに拡大した。

#### ③森づくりガイドライン

- 岡崎市、豊田市における水循環や森づくりに関する取り組みについて、担当者から情報共有され、意見交換を行った。
- 国の森林環境税の導入に向けての動きについて、情報共有を行うとともに、課題を整理した。
- 森づくりガイドライン策定に向けて、素案が示された。

#### ④木づかいガイドライン

- 根羽村森林組合が実施する「木づかいライブ・スギダラキャラバン」では、年間40箇所におよぶ出前授業を行った。
- 木づかいガイドライン策定にむけた原稿依頼に関して、市民へのアプローチを検討した。
- 「流域ものさし」の活用方法について、意見交換を行った。

### 2. 平成29年度の流域連携テーマ・イベントの活動成果について

流域連携テーマ・イベントの活動成果が報告され、意見交換を行いました。

流域連携  
テーマ

**ごみ・流木**：「藤前干潟エクスカージョン」へ参加し、「ごみ」を通してこの地域の課題を学んだ。

**土砂**：阿摺ダム下流(ソジバ)の礫置き試験区(矢作ダムの堆積土砂)における、アユなどの生物相の回復が確認された。

**木づかい**：木づかいを進める中で、流域材を利用した本箱作りも、プレイスメイキングの主力となることがわかった。

連携イベント

事例集交流会2017の実施  
(H29.4.15 根羽村)

2017 矢作川感謝祭への参加  
(H29.9.2 豊田市)

海ごみ減らそうフォーラムへの参加  
(H29.11.25 岡崎市)

### 3. 平成30年度の山部会の活動計画・今後の矢作川流域圏懇談会の体制について

平成30年度は、流域圏懇談会9年間の節目の年となります。このため、4つのテーマの9年目の目標について意見交換を行いました。また、9年目以降の矢作川流域圏懇談会の体制について、市民会議での意見交換を踏まえ議論を行いました。

市民会議の意見を踏まえた、次年度の体制の例示  
(※地域部会●：実施、●：必要に応じて実施)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
地域部会			●	●	●	●	●	●	●	●	◆	
合同部会							◎		◎			
市民部会				○		○				○		
全体会議												★
流域連携に関するイベント		◎					◎	◎				

◆：地域部会のまとめ

### 4. 森林・林業に関する話題提供

#### ★★豪雨災害と森づくり~九州北部豪雨災害の衝撃~★★

【話題提供者】蔵治座長

平成29年7月5日の九州北部では24時間で829mmという豪雨により、土砂量1,000万m<sup>3</sup>(福岡県のみ)、流木量19万m<sup>3</sup>流木量を記録しました。東海豪雨の280万m<sup>3</sup>の土砂量、3.5万m<sup>3</sup>の流木量と比較しても、その規模の大きさがわかります。現在、このような災害は国内のどこで起きてもおかしくない状況です。国(林野庁)や地方自治体(新・豊田市100年の森づくり構想)では災害に強い森づくりの検討がなされています。

#### ★★岡崎市(ぬかた)の森林・林業をめぐる動きについて★★

【話題提供者】丹羽副座長 ほか 岡崎市の皆さん

岡崎市では、森の健康診断を5年前と10年前に行っています(外部関係者主催)。今度はぬかたで地域主催の森の健康診断を行います。また、「奏林舎(そうりんしゃ)」という社団法人をつくり、若者の雇用を確保しつつ、広大な森の管理の一部を担いたいと考えています。同時に、木づかいの一環として、地域優良材のフェアトレードの社会実験を予定しています。岡崎市(ぬかた)は全国の先駆けとなる取り組みをしていきます。

## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●平成 29 年度の山部会の活動進捗報告

#### 《流域圏担い手づくり事例集》

- ・流域圏担い手づくり事例集の成果としては、何より名称の変更があり、川の団体はかなり取材できたことで、流域圏懇談会の目的と合致する流れになってきたことだと思う。(蔵治)

#### 《山村ミーティング》

- ・山村ミーティングの今年度の成果は、岡崎や豊田の林業関係者にヒヤリングを行い、多様な意見を聞いたことである。また、矢作川感謝祭では、普段は接点のない岡崎、豊田、根羽の森林組合が触れ合えたことだと思う。(丹羽)

#### 《森づくりガイドライン》

- ・森づくりガイドラインは、岡崎市や豊田市の森づくりの方針を加味しながら、あまり複雑な内容とするのではなく、中下流域の都市に住む人たちの心に届くものと考えている。(蔵治)
- ・長野県は新たな森林環境税の使い道として、防災・減災の観点から、間伐の緊急性を有する林分を定めて、積極的に活用していく方針を示している。(今村)
- ・木材価格が低迷する中で、皆伐後の新たな育林・育樹をめざすことは難しいと思う。(鈴木)
  - ▶ 中部地方の林業は、皆伐・植林の林業のサイクルが回っている九州南部とは大きく違うと認識している。(蔵治)
  - ▶ 木材利用指針(各自治体)には、生産から搬出までのサイクルが明記されており、周知する必要がある。(今村)

#### 《木づかいガイドライン》

- ・根羽村森林組合の活動が突出しているが、他の自治体においても木づかいは行われているはずだ。(蔵治)
  - ▶ 各自治体の予算化に合わせて、木づかいを働きかけてはどうか。その成果事例集を作れば面白い。(今村)
  - ▶ 懇談会の中で、毎年市町村に対して木づかいの実績を収集して公開してはどうか。(蔵治)

### ●平成 29 年度の流域連携テーマの成果・イベントの活動成果について

- ・市町村などの公共でもっと木づかいを進めてもらえるよう、流域圏懇談会から働きかけたいと思う。(今村)
- ・懇談会 8 年目にして、ようやく個々の活動が把握できるようになってきた。(丹羽)
  - ▶ まさに懇談会がめざす見える化というもので、課題解決に向けた議論が始められる段階になってきた。(蔵治)

### ●平成 30 年度の山部会の活動計画・今後の矢作川流域圏懇談会の体制について

- ・市民部会の活動は、これまで山が活動してきた場所を少し変えるというやり方が一番良いのではないかと。(高橋)
- ・是非、川や海の方々と一緒に議論していきたいと考えている。ただし、一つ危惧しているのは、議論の時間的な制約である。山部会 WG では、毎回 3 時間あっても議論の時間が足りないと感じる。(蔵治)
  - ▶ 毎回 1 つの山・川・海に共通するテーマを 1 つ準備し、議論すれば時間的な制約は解決できる。また、議論におけるルールを確立することで、議論で相互にもめることはないと思われる。(浅田)
- ・来年度は 9 年目という節目の年になるため、10 年目以降の懇談会の方向性を話し合う場が必要だ。(蜂須賀)
  - ▶ ここに示された体制案については、平成 30 年度以降の体制を示していると解釈している。(蔵治)
- ・12月の市民会議では、健全な森林土壌が海の富栄養化に関連があることを初めて知った。合同部会では、他の部会に聞きたいことや知ってほしいことをテーマに挙げ、フリーでディスカッションしてはどうか。(今村)

### ●森林・林業に関する話題提供

#### 《豪雨災害と森づくり～九州北部豪雨災害の衝撃～について》

- ・九州と矢作川流域では、斜面崩壊の形態は同じか。それとも違うのか。(福島)
  - ▶ 九州北部豪雨で生じたのは主に表層崩壊で岩盤まで崩壊する深層崩壊ではない。矢作川流域も表層崩壊が主となると考えられる。今回はたまたま九州北部で被害が出たが、この岡崎にも発生し得る災害である。(蔵治)
- ・東海豪雨は流木が矢作ダムでせき止められた。もし、ダムがなかったら、もっと悲惨なことになっていた。(丹羽)

#### 《岡崎市の森林・林業をめぐる動きについて》

- ・木の駅プロジェクトなどの額田地域の活動は、はじめは信じられないほどの素人の集団であったが、そのことが、かえって地域の活性化に、森林・林業の活性化につながっていた。(荻野)
- ・先日、NHK ラジオ(マイあさラジオ)で、まさに今の内容が放送されて驚いた。頑張ってもらいたい。(浅田)



### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

